



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年10月27日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <http://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治 TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 平成26年11月7日 配当支払開始予定日 平成26年12月8日

四半期決算補足説明資料作成の有無： 無

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	46,983	△1.1	490	—	617	106.6	310	86.6
26年3月期第2四半期	47,523	1.9	15	△92.4	298	100.0	166	—

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 642百万円 (661.9%) 26年3月期第2四半期 84百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	12.79	—
26年3月期第2四半期	6.92	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第2四半期	62,161	35,053	56.4	1,444.67
26年3月期	63,501	33,965	53.5	1,399.72

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 35,053百万円 26年3月期 33,965百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	6.50	—	6.50	13.00
27年3月期	—	7.50	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

平成27年3月期第2四半期末配当金の内訳 普通配当6円50銭 記念配当1円00銭 (創業90周年記念配当)

平成27年3月期期末配当金(予想)の内訳 普通配当6円50銭 記念配当1円00銭 (創業90周年記念配当)

3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	104,700	0.9	2,300	20.6	2,400	△0.7	1,400	245.7	57.70

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

連結業績予想の修正については、本日(平成26年10月27日)公表いたしました「平成27年3月期第2四半期連結結果計期間の業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 (社名) ー 、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期2Q	27,700,000株	26年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	3,435,746株	26年3月期	3,434,022株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期2Q	24,265,137株	26年3月期2Q	24,021,094株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施中であり、

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安を背景とした原材料やエネルギー価格の高騰が続く中、消費税率の引き上げに伴い、個人消費が低調となったものの、企業の設備投資の増加や雇用情勢の改善など、総じて景気は回復基調で推移いたしました。

菓子・飲料・食品業界は、実質所得の伸び悩みから、消費者の節約・低価格志向が根強く続くとともに、フードディフェンスを含めた食の安全・安心への取組強化と原材料等の価格上昇への対応が求められました。

このような中、当社グループは食品製造企業として、安全・安心・安定および健康を基とした品質保証第一主義に徹し、実質価値の高い商品と消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足の追求に向けた活動を推進してまいりました。女性の社会進出や少子高齢化などによるニーズの多様化が進むとともに、お客様の厳しい商品選別がある中、品質や価値の追求などに機敏かつ柔軟に対応し、きめ細かい店頭フォロー活動や積極的な企画提案型の営業活動、品揃えの強化と魅力のある商品の開発を通して新しい価値の提供に努めてまいりました。

その結果、パーティ商品や新しい価格帯の商品、キャラクターを使用した商品の展開などによりビスケット品目、飲料品目などが堅調に推移したものの、第1四半期での伸び悩みの影響により、売上高は前年同期をやや下回りました。

利益面では、引き続き生産性の向上やコスト削減に取り組むとともに、経費の効果的使用に徹したことから営業利益、経常利益、四半期純利益は前年同期を大きく上回りました。

営業品目別の概況

菓子の合計売上高は44,338百万円（対前年同期比98.7%）となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレート、チューインガムなどの品目を展開しています。安心感のあるロングセラーブランドに加え、簡便性、個食性を備え1本で満足感が得られるパーティ商品「濃厚チョコブラウニー」や新価格帯商品のマイベネフィットシリーズに好評をいただきました。発汗で失われた塩分やミネラルを手軽に補給できる「ミネラル塩飴」や夏季向け商品などが伸びました。一方で、気温が低めに推移した夏の天候不順の影響を受けたカップデザート商品や「凍らせて食べるフルじゅら」シリーズの需要が伸びませんでした。そのような中、LINEやFacebookなどのソーシャルネットワークを活用した情報発信の強化を図るとともに、カップ入りのチョコスナック「じゃがチョコ」では、夏期向けに「冷やしておいしい」のキャッチコピーを加え新しい食べ方の提案を行いました。企画商品の早期対応を図るとともに、新味による品揃えの強化やちょっと上質な大人向け商品、ワンランク上のプレミアム商品の開発などに取り組んだものの、既存品の伸び悩みにより全体では前年同期には及びませんでした。

飲料・食品・その他の合計売上高は2,644百万円（対前年同期比102.5%）となりました。

飲料・食品では、粒状ゼリー入りのドリンクゼリー「粒ジュレ」シリーズが伸び悩んだものの、ディズニーキャラクターの“アナと雪の女王”や“ディズニープリンセス”をデザインした天然水を発売し、大変好評をいただきました。機能性食品においては、栄養調整食品「スローバー」シリーズに新味を加え拡販に努めたほか、健康素材としてユーグレナを使用した商品の開発にも取り組みました。また、夏季向けのココナッツと塩を組み合わせたデザートドリンクやアイスココア商品が伸びたものの、保存缶商品の低迷などにより全体では前年同期を下回りました。

その他品目では、通信販売事業は多様化、高度化するお客様のニーズへの対応力強化に努め、季節に合わせた企画の提案や品揃えの充実により顧客の拡大とリピーターの増加に取り組みました。自動販売機事業は、多様な商品を取り扱うプチモールの展開推進と設置環境の選択による効率性の向上に取り組み、台数の増加に伴い伸びました。また、酒類販売事業は、クラフトビールブームの中、期間限定新製品の発売や輸出、受託生産の増加などにより前年同期を上回りました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は46,983百万円（対前年同期比98.9%）、営業利益は490百万円（前年同期 15百万円）、経常利益は617百万円（対前年同期比206.6%）、四半期純利益は310百万円（対前年同期比186.6%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は62,161百万円となり、対前連結会計年度末比1,339百万円の減少となりました。これは主に、季節変動の影響による受取手形及び売掛金等の減少があったことによるものです。

負債は27,107百万円となり、対前連結会計年度末比2,427百万円の減少となりました。これは主に、季節変動の影響による支払手形及び買掛金等の減少があったことと、法人税等の支払いがあったこと及び退職給付に係る負債の減少があったことによるものです。

純資産は35,053百万円となり、対前連結会計年度末比1,088百万円の増加となりました。これは主に、四半期純利益の計上があったことと、退職給付会計基準の改正に伴う退職給付債務の計算方法の変更により利益剰余金の増加があったことによるものです。

(連結キャッシュ・フローの状況に関する説明)

営業活動によるキャッシュ・フローは497百万円の収入（前年同期32百万円の支出）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益649百万円があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは1,637百万円の支出（前年同期523百万円の支出、対前年同期比312.8%）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1,890百万円があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは507百万円の支出（前年同期226百万円の支出、対前年同期比223.9%）となりました。これは主に、借入金及びリース債務の返済による支出348百万円と配当金の支払額157百万円があったことによるものです。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前第2四半期連結会計期間末に比べ101百万円増加し、10,576百万円となりました。また、前連結会計年度末に比べ1,666百万円の減少となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年5月1日の「平成26年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日付で「平成27年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」を公表しておりますのでご参照下さい。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更し、割引率の決定方法を残存勤務期間に基づく割引率を使用する方法から退職給付の支払見込期間ごとに設定された複数の割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が938百万円減少し、利益剰余金が604百万円増加しております。なお、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年 3 月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成26年 9 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,992	10,331
受取手形及び売掛金	12,257	9,633
有価証券	249	344
商品及び製品	3,258	4,131
仕掛品	449	491
原材料及び貯蔵品	2,690	2,990
その他	1,431	1,777
貸倒引当金	△42	△29
流動資産合計	32,287	29,671
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	6,984	7,541
機械装置及び運搬具 (純額)	7,819	8,303
その他 (純額)	8,503	9,213
有形固定資産合計	23,308	25,058
無形固定資産		
のれん	1,777	1,720
その他	443	465
無形固定資産合計	2,221	2,185
投資その他の資産		
その他	5,683	5,246
投資その他の資産合計	5,683	5,246
固定資産合計	31,213	32,490
資産合計	63,501	62,161

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,547	8,105
短期借入金	1,825	1,770
未払法人税等	1,010	519
賞与引当金	989	1,118
返品引当金	57	68
その他	7,828	8,385
流動負債合計	21,258	19,967
固定負債		
長期借入金	535	430
役員退職慰労引当金	191	200
退職給付に係る負債	6,276	5,316
資産除去債務	8	9
負ののれん	26	25
その他	1,238	1,158
固定負債合計	8,276	7,140
負債合計	29,535	27,107
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	7,628	7,628
利益剰余金	26,367	27,124
自己株式	△536	△538
株主資本合計	34,495	35,251
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	356	533
為替換算調整勘定	△612	△496
退職給付に係る調整累計額	△274	△234
その他の包括利益累計額合計	△530	△197
純資産合計	33,965	35,053
負債純資産合計	63,501	62,161

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	47,523	46,983
売上原価	28,067	28,131
売上総利益	19,456	18,851
販売費及び一般管理費	19,440	18,361
営業利益	15	490
営業外収益		
受取利息	7	8
受取配当金	42	35
負ののれん償却額	0	0
為替差益	229	78
その他	61	43
営業外収益合計	341	167
営業外費用		
支払利息	29	23
減価償却費	18	10
その他	10	7
営業外費用合計	58	40
経常利益	298	617
特別利益		
固定資産売却益	—	4
投資有価証券売却益	199	39
特別利益合計	199	44
特別損失		
固定資産処分損	5	6
減損損失	6	4
投資有価証券評価損	21	0
その他	0	—
特別損失合計	33	11
税金等調整前四半期純利益	464	649
法人税、住民税及び事業税	348	488
法人税等調整額	△50	△149
法人税等合計	298	339
少数株主損益調整前四半期純利益	166	310
四半期純利益	166	310

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	166	310
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	97	177
為替換算調整勘定	△179	115
退職給付に係る調整額	—	40
その他の包括利益合計	△81	332
四半期包括利益	84	642
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	84	642
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	464	649
減価償却費	1,667	1,522
のれん償却額	57	57
受取利息及び受取配当金	△49	△44
負ののれん償却額	△0	△0
支払利息	29	23
為替差損益 (△は益)	△179	△92
投資有価証券売却損益 (△は益)	△199	△39
固定資産処分損益 (△は益)	5	2
減損損失	6	4
投資有価証券評価損益 (△は益)	21	0
売上債権の増減額 (△は増加)	3,947	2,616
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△555	△1,218
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,278	△1,439
賞与引当金の増減額 (△は減少)	124	128
その他	△2,048	△721
小計	1,012	1,449
利息及び配当金の受取額	50	45
利息の支払額	△29	△22
法人税等の支払額	△1,065	△974
営業活動によるキャッシュ・フロー	△32	497
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,414	△1,890
有形固定資産の売却による収入	9	110
投資有価証券の取得による支出	△107	△33
投資有価証券の売却による収入	495	228
定期預金の払戻による収入	500	—
その他	△6	△52
投資活動によるキャッシュ・フロー	△523	△1,637
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△50	—
長期借入金の返済による支出	△152	△159
リース債務の返済による支出	△211	△188
配当金の支払額	△155	△157
自己株式の処分による収入	344	—
その他	△1	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△226	△507
現金及び現金同等物に係る換算差額	35	△18
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△746	△1,666
現金及び現金同等物の期首残高	11,220	12,242
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,474	10,576

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。